

# 建築物の省エネ補助金 の紹介



備前グリーンエネルギー株式会社

Green, and more.

令和6年度補正予算案、令和7年度当初予算案





# 令和 6 年度補正予算案

# 主な補助制度の紹介(1)-令和6年度補正予算案



	①省エネルギー投資促進・需要構造転換支援事業費 (1)工場・事業場型 先進枠 【経済産業省】	②省エネルギー投資促進・需要構造転換支援事業費 (1)工場・事業場型 一般枠 【経済産業省】	③省エネルギー投資促進・需要構造転換支援事業費 (1)工場・事業場型 中小企業投資促進枠 【経済産業省】	④省エネルギー投資促進・需要構造転換支援事業費 (2)電化・脱炭素燃転型 【経済産業省】
基本的要件	①省エネ率等：30%以上 ②省エネ量等：1,000kl以上 ③エネルギー消費原単位改善率：15% 改善率：15%以上 <補助対象> 先進設備・システム	①省エネ率等：10%以上 ②省エネ量等：700kl以上 ③エネルギー消費原単位改善率：7%以上 <補助対象> オーダーメイド設備又は指定設備	①省エネ率等：7%以上 ②省エネ量等：500kl以上 ③エネルギー消費原単位改善率：5%以上 ※指定するフォーマットにより目標・計画の作成・公表が必要（目標は一般枠の効果） <補助対象> オーダーメイド設備又は指定設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>化石燃料から電気への転換や、より低炭素な燃料への転換等、電化や脱炭素目的の燃料転換を伴う設備等の導入を支援</li> <li>上限3億円（電化の場合は5億円）</li> </ul>
補助率	中小企業2/3、大企業1/2	中小企業1/2、大企業1/3 ※投資回収年数が7年未満の場合 中小企業1/3、大企業1/4	中小企業1/2 ※投資回収年数が5年未満の場合 中小企業1/3	1/2
対象経費	設備費・工事費	設備費・工事費	設備費・工事費	設備費・工事費 (※工事費は中小企業のみ)
メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助率が高い</li> <li>補助金上限額が大きい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助率が高い</li> <li>補助金上限額が大きい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助率が高い</li> <li>補助金上限額が大きい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助率が高い</li> <li>補助金上限額が大きい</li> </ul>
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>導入できる機器に限られる</li> <li>書類量が多い</li> <li>省エネ目標達成義務</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>書類量が多い</li> <li>省エネ目標達成義務</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>書類量が多い</li> <li>省エネ目標達成義務</li> <li>大企業は対象外</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>導入できる機器に限られる</li> <li>省エネ目標達成義務</li> </ul>
計測装置費用	必要	必要	必要	必要
応募期間	1次：3月下旬～4月下旬 2次：5月下旬～7月上旬	1次：3月下旬～4月下旬 2次：5月下旬～7月上旬	1次：3月下旬～4月下旬 2次：5月下旬～7月上旬	1次：3月下旬～4月下旬 2次：5月下旬～7月上旬
予算(案)額	R6補正300億円の内数 (R5補正910億円の内数)	R6補正300億円の内数 (R5補正910億円の内数)	R6補正300億円の内数 (R5補正910億円の内数)	R6補正300億円の内数 (R5補正910億円の内数)

※過去の事業を参考に記載している内容を含みます

# 主な補助制度の紹介(2) - 令和6年度補正予算案



	⑤省エネルギー投資促進・需要構造転換支援事業費 (3) エネルギー需要最適化型 【経済産業省】	⑥省エネルギー投資促進支援事業費 (1) 設備単位型 【経済産業省】	⑦ZEB普及促進に向けた省エネルギー建築物支援事業 【環境省】	⑧民間建築物等における省CO2改修支援事業 【環境省】
基本的要件	<ul style="list-style-type: none"> <li>エネマネ事業者等と共同で作成した計画に基づくEMS制御や高効率設備の導入、運用改善による省エネ取組を支援</li> <li>上限1億円</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>省エネ性能の高いユーティリティ設備、生産設備等への更新を支援</li> <li>上限1億円</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>断熱強化や再エネ導入も行う必要性が大</li> <li>全熱交換換気扇とBEMS制御導入が必要</li> <li>2,000m未満の建物はZEB Readyは対象外</li> <li>非住宅建築物ストックの省CO2改修調査(上限100万円)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>改修前に比べ30%以上のCO2削減に寄与する空調、BEMS装置等の導入費用</li> <li>運用改善によりさらなる省エネの実現を目的とした体制の構築</li> <li>全熱交換換気扇やBEMS制御導入で加点</li> <li>補助金上限3千5百万円</li> </ul>
補助率	中小企業1/2、大企業1/3 (EMS部分)	1/3	既存建築物：2/3 新築：ZEB Ready 1/4、Nearly ZEB 1/3、『ZEB』1/2 CO2改修調査：1/2	1/3
対象経費	設備費・工事費	設備費	設備費 工事費 調査費	設備費 工事費
メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助率が高い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>書類量が少なめ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存建築物は補助率が高い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>設備ごとで目標を達成すれば良い</li> </ul>
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>書類量が多い</li> <li>省エネ目標達成義務</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭用エアコンは補助対象外</li> <li>省エネ目標達成義務</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>書類量が多い</li> <li>初期費用が高くなる</li> <li>照明は対象外</li> <li>地方公共団体は都道府県、指定都市、中核市及び施工時特例市を除く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>照明は対象外</li> </ul>
計測装置費用	必要 (EMS)	不要	必要 (BEMS)	不要
応募期間	1次：3月下旬～4月下旬 2次：5月下旬～7月上旬	1次：3月下旬～4月下旬 2次：5月下旬～7月上旬	3月下旬～5月上旬	3月下旬～5月上旬
予算(案)額	R6補正300億円の内数 (R5補正910億円の内数)	R6補正300億円の内数 (R5補正250億円の内数)	R6補正48億円の内数 (R5補正61.71億円の内数)	R6補正48億円の内数 (R5補正61.71億円の内数)

※過去の事業を参考に記載している内容を含みます

# 主な補助制度の紹介(3) - 令和6年度補正予算案



	⑧テナントビルの省CO2改修支援事業 【環境省】	⑨工場・事業場における先導的な脱炭素化取組推進事業（SHIFT事業） 【環境省】	⑩地域レジリエンス・脱炭素化を同時実現する公共施設への自立・分散型エネルギー設備等導入推進事業 【環境省】	⑪業務用建築物の脱炭素改修加速化事業 【環境省】
基本的要件	<ul style="list-style-type: none"> <li>更新対象機器で20%以上の省エネ</li> <li>グリーンリース契約の締結</li> <li>テナント面積がビル全体の30%以上で共用部設備も補助対象</li> <li>全熱交換換気扇やBEMS制御導入で加算</li> <li>補助金上限4千万円</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>省CO2型システムへの改修支援事業 中小企業等におけるCO2排出量を大幅に削減する電化・燃料転換・熱回収等の取組によりCO2排出量を向上・事業場単位で15%以上又は主要なシステム系統で30%以上削減する設備導入等を支援する（3か年以内）。</li> <li>省CO2型設備更新支援 DXシステムを用いた中小企業等の設備運用改善による即効性のある省CO2化や運転管理データに基づく公的な改修設計などのモデル的な取組を支援する（2か年以内）。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災拠点・避難施設等</li> <li>地域防災計画での位置付けが必要</li> <li>平時自家消費・災害時稼働の再エネ・蓄電（又はコジェネ）導入</li> <li>上記からの供給を受けて稼働する範囲内の空調・照明・給湯等を導入</li> <li>民間施設は対象外</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>改修後の外皮性能BPIが1.0以下となっていること及び一次エネルギー消費量が省エネルギー基準から用途に応じて30%又は40%程度以上削減されること、BEMSによるエネルギー管理を行うこと等</li> <li>主な対象設備 断熱窓、断熱材、高効率空調機器、高効率照明等</li> </ul>
補助率	1/3	<ol style="list-style-type: none"> <li>1/3、補助上限1億円</li> <li>3/4、補助上限200万円</li> </ol>	導入 1/3～2/3	改修内容に応じて定額又は補助率1/2～1/3相当等
対象経費	設備費 工事費	診断費 設備費 工事費	設備費 工事費	導入設備等により決定
メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>設備ごとに目標を達成すれば良い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>削減目標未達分はCO2排出権を購入すれば可</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>採択率が高い</li> <li>補助率が高い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ZEB補助金よりも応募が容易</li> </ul>
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>建物テナント面積・共用部面積の把握</li> <li>区分所有は同意必須</li> <li>照明は対象外</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>CO2排出量検証費用が必要</li> <li>照明は対象外</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>再エネ・蓄電・コジェネの供給を受けて稼働する範囲内の設備に限る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>断熱強化が必要</li> <li>BELS費用が必要</li> </ul>
計測装置費用	不要	システム系統単位は必要	必要	必要
応募期間	3月上旬～5月上旬	診断 3月下旬～5月下旬 設備更新 3月下旬～5月下旬	1次 3月下旬～4月下旬 2次 5月下旬～6月中旬	3月下旬～1月下旬
予算（案）額	R6補正48億円の内数 (R5補正61.71億円の内数)	R6補正30億円 (R5補正40.34億円)	R6補正20億円 (R5補正20億円)	R6補正111.75億円 (R5補正111億円)

※過去の事業を参考に記載している内容を含みます

# 主な補助制度の紹介(4) - 令和6年度補正予算案



	⑫地域脱炭素移行・再エネ推進 交付金 【環境省】	⑬民間企業等による再エネの導 入及び地域共生加速化事業 【環境省】	⑭地域脱炭素実現に向けた再エ ネの最大限導入のための計画づ くり支援事業 【環境省】	⑮中小企業等に対するエネル ギー利用最適化推進事業 【経済産業省】
基本的要件	1. 脱炭素先行地域づくり事業への支援 【交付要件】 脱炭素先行地域に選定されていること （一定の地域で民生部門の電力消費に伴うCO2排出実質ゼロ達成等） 2. 重点対策加速化事業への支援 【交付要件】 再エネ発電設備を一定以上導入すること （都道府県・指令都市・中核市・施工時特例市：1MW以上、その他の市町村：0.5MW以上）	1. ストレージパリティの達成に向けた太陽光発電設備等の価格低減促進事業 2. 設置場所の特性に応じた再エネ導入・価格低減促進事業 3. 離島の脱炭素化等推進事業 4. 新手法による建物間融通モデル創出事業 5. データセンターのゼロエミッション化・レジリエンス強化促進事業	① 地域の再エネ目標と意欲的な脱炭素の取組の検討による計画策定支援 ② 公共施設等への太陽光発電設備等の導入調査支援 ③ 官民連携で行う地域再エネ事業の実施・運営体制構築及び事業の多角化支援 ④ 再エネ促進区域の設定等に向けたゾーニング支援 ⑤再エネ促進区域等における地域共生型再エネ設備導入調査支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 省エネの専門家が中小企業等の工場・ビル等のエネルギー管理状況の診断を実施し、運用改善や設備投資等を提案するために必要な経費を補助する。</li> <li>● 省エネ診断・アドバイスを発行する専門人材の拡大に向け、事務局において、各執行団体の専門人材の育成等の実施を行う。</li> </ul>
補助率	交付金（交付率3/4～1/3、2/3～1/3等）	1. 4～7万円/kW※コスト要件あり 2. 1/3（ソーラーカーポート） ※コスト要件あり	① : 3/4、2/3 ②,④ : 3/4 ③ : 2/3、1/2、1/3 ⑤ : 1/2	9/10
対象経費	省エネ 再エネ レジリエンス 調査	再エネ レジリエンス 調査	調査	調査
予算（案）額	R6補正365億円 （R5補正135億円）	R6補正70億円 （R5補正82.11億円）	R6補正9.18億円 （R5補正18.85億円）	R6補正34億円 （R5補正21億円）

※過去の事業を参考に記載している内容を含みます



# 令和7年度当初予算案

# 主な補助制度の紹介(1)-令和7年度当初予算案



	①省エネルギー投資促進・需要構造転換支援事業費補助金 (1)工場・事業場型 【経済産業省】	②省エネルギー投資促進・需要構造転換支援事業費補助金 (2)電化・脱炭素燃転型 【経済産業省】	③省エネルギー投資促進・需要構造転換支援事業費補助金 (3)エネルギー需要最適化型 【経済産業省】
基本的要件	<ul style="list-style-type: none"> <li>工場・事業場全体で、機械設計が伴う設備又は事業者の使用目的や用途に合わせて設計・製造する設備、先進型設備等の導入を支援</li> <li>上限15億円（非化石転換設備の場合は20億円）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>化石燃料から電気への転換や、より低炭素な燃料への転換等、電化や脱炭素目的の燃料転換を伴う設備等の導入を支援</li> <li>上限3億円（電化の場合は5億円）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>エネマネ事業者等と共同で作成した計画に基づくEMS制御や高効率設備の導入、運用改善による省エネ取組を支援</li> <li>上限1億円</li> </ul>
補助率	中小企業1/2、大企業1/3 (一定の要件を満たす場合には中小企業2/3、大企業1/2)	1/2	中小企業1/2、大企業1/3 (EMS部分)
対象経費	設備費・工事費	設備費・工事費 (※工事費は中小企業のみ)	設備費・工事費
メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助率が高い</li> <li>補助金上限額が大きい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助率が高い</li> <li>補助金上限額が大きい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助率が高い</li> </ul>
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>導入できる機器に限られる</li> <li>書類量が多い</li> <li>省エネ目標達成義務</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>導入できる機器に限られる</li> <li>省エネ目標達成義務</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>書類量が多い</li> <li>省エネ目標達成義務</li> </ul>
計測装置費用	必要	必要	必要 (EMS)
応募期間	不明	不明	不明
予算(要求)額	R7補正760億円の内数	R7補正760億円の内数	R7補正760億円の内数

※過去の事業を参考に記載している内容を含みます



# 主な補助制度の紹介(2) - 令和7年度当初予算案



	④既存建築物省エネ化推進事業 【国土交通省】	⑤ネット・ゼロ・エネルギー・ビル (ZEB)の実証事業 【経済産業省】	⑥LCCO2削減型の先導的な新築 ZEB支援事業 【環境省】	⑦ZEB普及促進に向けた省エネ 建築物支援事業 【環境省】
基本的要件	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 建物全体の20%以上の省エネ</li> <li>● 外皮改修面積割合20%以上の場合、15%以上の省エネ</li> <li>● 断熱強化が必須</li> <li>● 建物省エネ性能表示 (BELS)</li> <li>● 補助金上限5千万円</li> <li>● 既存換気設備よりも風量の多い全熱交換換気扇を導入で加点</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 建物省エネ基準に対して50%以上 (10,000㎡以上は30~40%以上) の大幅省エネ</li> <li>● 断熱強化や再エネ導入も行う必要性が大</li> <li>● 未評価技術を導入</li> <li>● 民間かつ延床面積2,000㎡以上 (新築は10,000㎡以上) の建物が対象</li> <li>● 補助金上限5億円等</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. LCCO2削減型の先導的な新築ZEB支援事業                     <ul style="list-style-type: none"> <li>● 補助要件：ZEB Ready基準以上の省エネルギー性能を満たし、LCCO2の算出及び削減、再エネ及び未評価技術の導入等を要件とし、付随する運用時の先導的な取組も採択時に評価する。</li> </ul> </li> <li>2. ZEB化推進に係る調査・検討事業</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 建物省エネ基準に対して50%以上の大幅省エネ (10,000㎡以上は30~40%以上 + 未評価技術も可)</li> <li>● 断熱強化や再エネ導入も行う必要性が大</li> <li>● 全熱交換換気扇とBEMS制御導入が必要</li> <li>● 2,000㎡未満の建物はZEB Readyは対象外</li> <li>● 補助金上限5億円 (延床面積2,000㎡未満なら3億円)</li> </ul>
補助率	1/3	2/3	新築：ZEB Ready 1/3、 Nearly ZEB 1/2、『ZEB』 3/5	既存建築物：2/3 新築：ZEB Ready 1/4、 Nearly ZEB 1/3、『ZEB』 1/2
対象経費	設備費 工事費 撤去費	設計費 設備費 工事費	設備費 工事費	設備費 工事費
メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 撤去費が補助対象</li> <li>● 照明が補助対象</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 補助率が高い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 補助率が高い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 既存建築物は補助率が高い</li> </ul>
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 広範囲断熱強化が必要</li> <li>● 壁掛エアコン、誘導灯が補助対象外</li> <li>● BELS費用が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 書類量が多い</li> <li>● 初期費用が高くなる</li> <li>● 配管・配線、共通費等、補助対象外が多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 書類量が多い</li> <li>● 初期費用が高くなる</li> <li>● 地方公共団体は都道府県、指定都市、中核市及び施工時特例市を除く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 書類量が多い</li> <li>● 初期費用が高くなる</li> <li>● 照明は対象外</li> <li>● 地方公共団体は都道府県、指定都市、中核市及び施工時特例市を除く</li> </ul>
計測装置費用	不要	必要 (BEMS)	必要 (BEMS)	必要 (BEMS)
応募期間	4月下旬~5月下旬	5月中旬~6月上旬	8月上旬~9月中旬	6月上旬~7月上旬
予算(案)額	R7当初42.03億円の内数	R7当初55億円の内数 (R6当初57億円の内数)	R7当初38.2億円 (R6当初47.19億円の内数)	R7当初38.2億円 (R6当初47.19億円の内数)

# 主な補助制度の紹介(3)-令和7年度当初予算案



	⑧工場・事業場における先導的な脱炭素化取組推進事業（SHIFT事業） 【環境省】	⑨コールドチェーンを支える冷凍冷蔵機器の脱フロン・脱炭素化推進事業 【環境省】
基本的要件	<p>1. 省CO2型システムへの改修支援事業 中小企業等におけるCO2排出量を大幅に削減する電化・燃料転換・熱回収等の取組によりCO2排出量を向上・事業場単位で15%以上又は主要なシステム系統で30%以上削減する設備導入等を支援する（3か年以内）。</p> <p>2. 省CO2型設備更新支援 DXシステムを用いた中小企業等の設備運用改善による即効性のある省CO2化や運転管理データに基づく公的な改修設計などのモデル的な取組を支援する（2か年以内）。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 冷凍冷蔵倉庫、食品製造工場、食品小売店舗の脱炭素型自然冷媒機器の導入費用に対して補助を行う</li> <li>● 大企業に関しては、再エネ活用や高水準の省エネ化等に先進的に取り組んでいることを条件とする</li> <li>● 自然冷媒機器導入費用に対する補助であり、再エネ設備等の導入費用は補助対象外</li> </ul>
補助率	<p>1. 1/3、補助上限1億円</p> <p>2. 3/4、補助上限200万円</p>	原則 1/3
対象経費	診断費 設備費 工事費	未定
メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 削減目標未達分はCO2排出権を購入すれば可</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 冷凍冷蔵の更新に使用できる</li> </ul>
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>● CO2排出量検証費用が必要</li> <li>● 照明は対象外</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自然冷媒の機器を導入する必要がある</li> </ul>
計測装置費用	システム系統単位は必要	未定
応募期間	<p>診断 6月上旬～8月中旬</p> <p>設備更新 6月上旬～8月中旬</p>	未定
予算（要求）額	R7当初27.86億円 (R6当初33.29億円)	R7当初70億円 (R6当初70億円)

※過去の事業を参考に記載している内容を含みます

# 主な補助制度の紹介(4)-令和7年度当初予算案



	⑩地域レジリエンス・脱炭素化を同時実現する公共施設への自立・分散型エネルギー設備等導入推進事業【環境省】	⑪災害時に備えた社会的重要インフラへの自衛的な燃料備蓄の推進事業費補助金【経済産業省】	⑫災害時に備えた地域におけるエネルギー供給拠点の整備事業費【経済産業省】
基本的要件	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 防災拠点・避難施設等</li> <li>● 地域防災計画での位置付けが必要</li> <li>● 平時自家消費・災害時稼働の再エネ・蓄電（又はコジェネ）導入</li> <li>● 上記からの供給を受けて稼働する範囲内の空調・照明・給湯等を導入</li> <li>● 民間施設は対象外</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 多数の避難者、避難困難者が発生する施設（商業施設）、自治体における防災の拠点となる施設</li> <li>● LPガス・石油製品を利用した、LPガスタンク、石油タンク、自家発電設備、照明、空調、コジェネ、給湯、調理機器等の設置を支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 災害時にガソリン・軽油等の燃料供給拠点となるサービスステーション（SS）の災害対応力をさらに強化することを目的とする。</li> <li>● 地下タンクの入換・大型化、ペーパー回収設備の導入、自家発電設備の入換を支援</li> <li>● 緊急時の石油製品供給に係る研修・訓練等の支援</li> </ul>
補助率	導入 1/3～2/3 調査・計画策定 1/2	中小企業 2/3 その他 1/2 等	地下タンクの入換・大型化：3/4、2/3、1/4 ペーパー回収設備：1/2 自家発電設備の入換：10/10 研修・訓練等の支援：定額
対象経費	設備費 工事費	設備費 工事費	不明
メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 採択率が高い</li> <li>● 補助率が高い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 補助率が高い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 補助率が高い</li> </ul>
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 再エネ・蓄電・コジェネの供給を受けて稼働する範囲内の設備に限る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 防災拠点の施設に限る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● SSに限る</li> </ul>
計測装置費用	必要	不要	不明
応募期間	1次 4月上旬～6月上旬	4月～8月(燃料種等による)	不明
予算（要求）額	R7当初20億円 (R6当初20億円)	R7当初37億円 (R6当初40億円)	R7当初6.7億円 (R6当初6.7億円)

※過去の事業を参考に記載している内容を含みます

# 主な補助制度の紹介(5) - 令和7年度当初予算案



	⑬地域脱炭素推進交付金 【環境省】	⑭民間企業等による再エネ主力化・レジリエンス強化促進事業 【環境省】
基本的要件	<ol style="list-style-type: none"> <li>脱炭素先行地域づくり事業への支援 【交付要件】 脱炭素先行地域に選定されていること (一定の地域で民生部門の電力消費に伴うCO2排出実質ゼロ達成等)</li> <li>重点対策加速化事業への支援 【交付要件】 再エネ発電設備を一定以上導入すること (都道府県・指令都市・中核市・施工時特例市：1MW以上、その他の市町村：0.5MW以上)</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>ストレージパリティの達成に向けた太陽光発電設備等の価格低減促進事業</li> <li>新たな手法による再エネ導入・価格低減促進事業</li> <li>再エネ主力化に向けた需要側の運転制御設備等導入促進事業</li> <li>離島等における再エネ主力化に向けた設備導入等支援事業</li> <li>平時の省CO2と災害時避難施設を両立する直流による建物間融通モデル創出事業</li> <li>データセンターのゼロエミッション化・レジリエンス強化促進事業</li> <li>公共施設の設備制御による地域内再エネ活用モデル構築事業</li> </ol>
補助率	交付金（交付率原則2/3～1/3、定額）	<ol style="list-style-type: none"> <li>4～7万円/kW※コスト要件あり</li> <li>1/3（ソーラーカーポート） ※コスト要件あり</li> </ol>
対象経費	省エネ 再エネ レジリエンス 調査	再エネ レジリエンス 調査
予算（要求）額	R7当初385.21億円の内数 (R6当初365億円)	R7当初34.5億円 (R6当初40.0億円)

※過去の事業を参考に記載している内容を含みます

# 主な補助制度の紹介(6) - 令和7年度当初予算案



	⑮地域脱炭素実現に向けた再エネの最大限導入のための計画づくり支援事業 【環境省】	⑯中小企業等エネルギー利用最適化推進事業 【経済産業省】	⑰エネルギー構造高度化・転換理解促進事業費補助金 【経済産業省】
基本的要件	<p>1-①. 地域の再エネ目標と意欲的な脱炭素の取組の検討による計画策定支援</p> <p>1-②. 公共施設等への太陽光発電設備等の導入調査支援</p> <p>1-③. 官民連携で行う地域再エネ事業の実施・運営体制構築及び事業の多角化支援</p> <p>1-④. 公共施設等への再エネ導入加速化及び計画策定支援事業 等</p> <p>2-①. 再エネ促進区域の設定等に向けたゾーニング支援</p> <p>2-②. 再エネ促進区域等における地域共生型再エネ設備導入調査支援</p> <p>2-③. 促進区域設定手法等のガイド作成・横展開</p> <p>3. 地域脱炭素実現に向けた中核人材の確保・育成事業</p>	<p>1. エネルギー利用最適化診断事業・情報提供事業 中小企業等の工場・ビル等のエネルギー管理状況の診断、AIやIoT等を活用した運用改善や再エネ導入等提案</p> <p>2. 地域のエネルギー利用最適化取組支援事業 省エネのみならず再エネ導入等も含むエネルギー利用最適化に向け、中小企業等が相談可能なプラットフォームを地域毎に構築</p>	<p>● 原発立地地域やその周辺地域</p> <p>1. 地域理解促進事業…自治体等が行う、再生可能エネルギーを活用した地域振興等の取組を通じて、エネルギー構造の高度化等に係る地域の理解を図る事業</p> <p>2. 技術開発事業…自治体が行う再生可能エネルギー・省エネルギーに関する技術開発を通じ、当該自治体のエネルギー構造の高度化等に係る地域の理解を図る事業</p> <p>3. 技術開発事業…自治体が行う再生可能エネルギー・省エネルギーに関する技術開発を通じ、当該自治体のエネルギー構造の高度化等に係る地域の理解を図る事業</p>
補助率	<p>1-① 3/4, 2/3</p> <p>1-② 3/4</p> <p>1-③ 2/3, 1/2, 1/3</p> <p>2-① 3/4</p> <p>2-② 1/2</p>	9/10	定額
対象経費	調査	調査	再I 調査
予算(要求)額	R7当初7.11億円 (R6当初7.58億円)	R7当初6.1億円 (R6当初9.9億円)	R7当初79億円 (R6当初72億円)

※過去の事業を参考に記載している内容を含みます